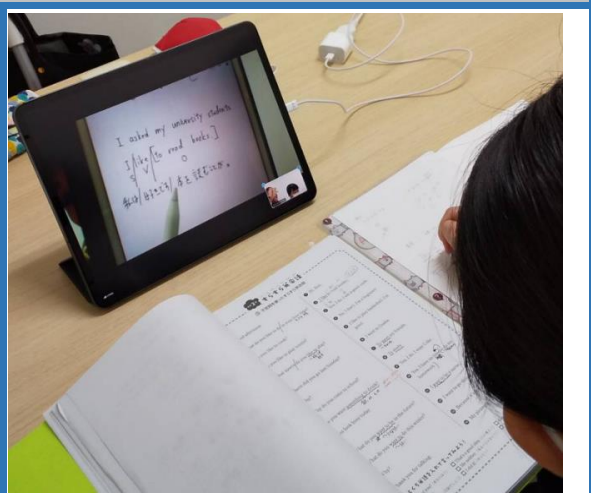
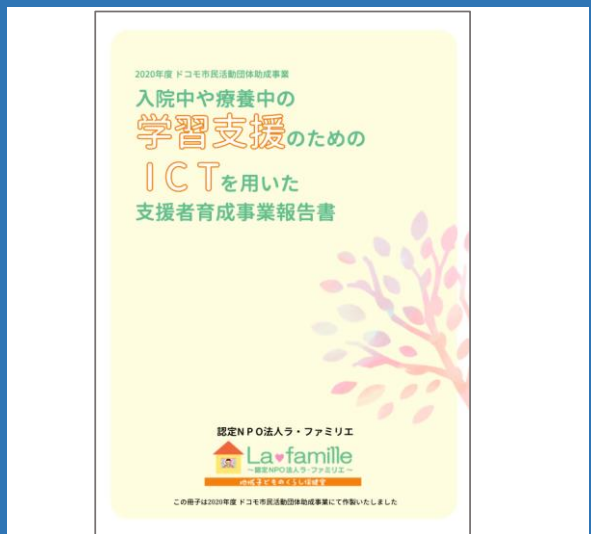


2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2021/09/02

| 団体名 | 認定NPO法人ラ・ファミリエ | 活動タイトル | 入院や療養中の学習支援のためのICTを活用した支援者育成事業 | | | |
|---|--|---|-------------------------------------|---|--|-----------------|
| <p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p> | | | <p align="center">■ 活動風景</p> | | | |
| <p>● 望ましい社会状況(ビジョン)</p> | <p>当法人は「子どもが子どもらしく生活し、成長することのできる社会」づくりをめざしている。変化する現代において、病気や貧困、虐待など子どもたちが置かれている状況は様々であるが、どのような状況下でも教育を受けること、主体的に学ぶことができる機会が保障されていることは子どもの権利である。当法人が支援している子どもたちのように、病気による入院や長期療養のため学校に通学できない状況でも、子どもたちが学びを深め、子どもらしく成長することのできる社会づくりを目指す。</p> | | <p>病気の子どもたちへの学習支援</p> |  <p>タブレットを用いた遠隔での学習支援の様子</p> | | |
| <p>● 団体の社会的役割(ミッション)</p> | <p>病気の子どもたちが病気や障害を乗り越えて、社会的自立に向け成長発達することを支援することで、共生社会の実現を目指す。 ①入院や長期療養等により学習ニーズが生じている子どもたちに学習機会を保障することで、学齢期の育ちを支援する。 ②病気の子どもたちとその家族への相談支援事業等を行い、家族ごと支援することで、子どもたちが安全・安心に成長していく支援を行う。 ③病気の子どもたちに関する啓発活動を行い、病気や障害があっても共に生活できる地域社会づくりに貢献する。</p> | | | | | |
| <p>● 団体の活動基盤</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 望ましい人的資源：学習指導や病気療養児の心理・生理に関する専門性のあるスタッフや教育支援者を定期的に育成するための専門的な知識技能のある人材。 ● 望ましい物的資源：病院内で利用可能なインターネットや、遠隔での学習支援を可能とするICT機器や通信ネットワーク環境が構築されていること。 ● 望ましい活動資金：学習支援者の交通費、学習支援者と希望者のマッチングをするスタッフの給与と交通費。 ● 望ましい情報：病院内で活用可能なインターネット環境の構築に関する情報。 | | | | | |
| <p align="center">■ 活動報告</p> | | <p align="center">■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p> | | | | |
| <p>(1) 病気の子どもたちに対してICT機器を活用して遠隔学習支援のできる学習支援者育成のための研修会 病気の子どもたちの学習支援に関する研修会をR2年9月～R3年6月（第1期）とR3年6月～（第2期）で実施した。研修は全5回で構成した。第1期は27名が参加し、第2期には22名が参加した。</p> <p>(2) 入院や長期療養などにより学習のニーズが生じている子どもたちに対する対面ないし遠隔学習支援 個人面談を終え、対象児との都合が合う受講生が学習支援ボランティア実習にあたった。事業期間中では、8名の病児に合計251回の学習支援を実施した。</p> <p>(3) 医療機関・保護者への啓発活動 R3年4月24日(土)に副島賢和先生を講師として、オンラインの公開講座を実施した。参加申し込みは定員の100名で、アンケートでは、回答者の約88%が5段階評価で「5とても満足している」と回答した。また、事業報告書冊子を作成、関係機関に配布したり、PDFをHPで公開したりすることで理解啓発を図った。</p> | <p>(1) 第1期研修会受講生のループブック評価の結果によると、<知識技能>、<思考・判断・表現>、<技能>、<関心・意欲・態度>について全体的に数値に上昇が見られ、研修会を通して受講生の力が向上したと言える。病気や子どもたちの関わり、そして感染流行期の学習支援にも対応できるICTを活用した遠隔支援ができる人材を育成することができたと言える。</p> <p>(2) 感染流行期によりほとんどがオンラインでの学習支援となったが、ICT機器等を用いて学習支援を継続することができた。事業期間内には小学生から高校生までの幅広い年齢層の学習支援に対応することができた。また、学習支援を実施したボランティアから、オンラインでの学習支援のコツや工夫を聞き、ノウハウを共有することができた。</p> <p>(3) 公開講座には、医療関係者や福祉関係者、教育関係者、保護者や大学生などが参加した。講師の経験談も踏まえた公開講座により、入院中や自宅療養中の子どもたちを取り巻く状況や子どもたちの思いについて、参加者に具体的にイメージして考えてもらうことができた。</p> | | | <p>報告書作成</p> |  <p>学習支援ボランティア研修会や学習支援の工夫等をまとめた冊子の表紙(本報告書は、MCFホームページに掲載)</p> | |
| <p align="center">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p> | | <p align="center">■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p> | | | | |
| <p>① 遠隔学習支援に関するアイデアの蓄積 実際にICT機器等を活用して遠隔学習支援を行ったスタッフやボランティアの事例や工夫が蓄積でき、ビデオ通話で支援をする際の姿勢や便利な機能、おすすめの学習アプリなど、今後の効果的な遠隔学習支援のためのアイデアを得ることができた。</p> <p>② 感染流行期における研修会実施の方法 新型コロナウイルスの感染拡大状況から、対面での研修会ではなくオンラインでの研修会となった。初めての取組であったが、その実施にあたり、研修会の教材の配信や受講生からの課題の提出、一斉連絡や個別のやりとり等ができるツールを検討し、円滑に研修会が運営できる方法を構築することができた。</p> | <p>病気の子どもたちの教育的ニーズに応じた支援を実施できるよう、県内におけるニーズの把握と学習支援の実施は継続していく必要があるが、本来であれば、公教育による早急な学習機会の保証が必要である。学習支援を実施していただくだけでなく、多くの人に病気の子どもたちが「学習したくても学習できない」という状況にあることを知ってもらえるよう、在籍校との調整や広く理解啓発を図っていく必要がある。</p> | | | <p>この1年間の活動を通じて</p> | <p>感染流行期にも支援を絶やさず継続できる人材育成と病気の子どもたちの教育や学習支援に関する理解者の拡大</p> | <p>を達成しました。</p> |
| <p align="center">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p> | | <p align="center">■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p> | | | | |
| <p align="center">■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> | | <p align="center">■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>①学習支援者：ループブック評価や日々のやり取り等から、研修会受講生の学習支援に関する知識・技能が向上したことがわかる。 ②病気による入院・長期療養中の子どもたち：個人に学習を任されていた時に比べ、定期的に学習に取り組む時間が増えたり、授業を受けておらず解けなかった分野が理解し解けるようになったりといった様子が見られている。また「将来は～したい」といったような、自分の将来について考える様子も見られている。 ③病気の子どもを取り巻く人々：公開講座に参加した88%が大変満足し、病気の子どもたちへの学習支援の意義と方法を理解した。</p> | | | | |